

会記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 植物地理・分類学会, The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy, メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00053437

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



会 記

2009年度会計報告 (2009年4月1日～2010年3月31日)

○植物地理・分類学会

収入 (A)	4,697,523円	支出 (B)	2,192,745円
会費	1,849,000	雑誌印刷費	1,346,100
バックナンバー	0	(57-1,57-2)	
書籍売上	4,000	雑誌送料	96,495
別刷代金	141,450	通信費	121,310
超過ページ組賃	66,000	英文校閲	50,000
カラー図版代金	40,000	会計事務	160,400
利息	230	庶務事務	90,048 (内訳)
雑収入 (論文抄録等)	52,520	雑誌等発送アルバイト	32,000
総会参加費等	19,500	文具等	19,198
前年度後援会立替金	29,000	封筒印刷等	38,850
前年度繰越金	2,495,823	ニュースレター送料	43,680
		会議旅費	120,000
		学会運営費	60,000
		雑支出	2,920
		総会関係	101,792 (内訳)
		運営費	15,952
		会場費	0
		旅費	75,000
		雑支出	840
		懇親会補助	10,840

差引 (A - B) 2,504,778 円 (次年度への繰越金)

○植物地理・分類学会後援会

収入 (A)	624,795円	支出 (B)	161,328円
剰金 (0 件)	0	授賞金	50,000
前年度繰越金	624,795	受賞者旅費・宿泊費等	82,000
		大会用消耗品	328
		支払立替金 (本会へ)	29,000

差引 (A - B) 463,467 円 (次年度への繰越金)

新入会員 (2010年1月～2010年9月)

2月 5日	高橋 耕一	〒390-8621	松本市旭 3-1-1	信州大学理学部生物学科
2月 22日	澤田 徹	〒621-8686	亀山市天恩郷	大本花明山植物園
4月 1日	李 孝鎮	〒739-8529	東広島市鏡山 1-5-1	広島大学国際協力研究科
4月 1日	中島 邦雄	〒905-0006	名護市宇茂佐 647	安田根川原
4月 1日	毛利 千香	〒920-1192	金沢市角間町	金沢大学医薬保険学域薬学類 創薬科学類附属植物園
4月 8日	谷口 寿仁	〒168-0064	杉並区永福 2-53-10	サニービュー羽鳥 402
5月 11日	飯尾 俊介	〒490-1143	愛知県海部郡大治町	大字砂子字大宮崎 2614-2
6月 14日	小澤 正幸	〒271-0092	松戸市松戸 1689	ヤングハイム松嶋 603 号
7月 27日	木村 雅行	〒573-0071	枚方市茄子作 4 丁目	48-1
9月 6日	鶴谷 保	〒758-0057	萩市堀内 132	山口県立萩高等学校

退会会員 (2010年1月～2010年9月)

秋山久美子	〒183-0045	府中市美好町 3-10-34
藤本 義昭	〒654-0121	神戸市須磨区妙法寺字岩山 1054-3
岩崎 五郎	〒241-0005	横浜市旭区白根町 1-13-14
小宮 芳男	〒254-0001	平塚市大島 1425-6
宮崎 弘規	〒490-1111	愛知県海部郡甚目寺町甚目寺松山 73
長井 真隆	〒938-0022	黒部市金屋 131-1
佐野 修	〒920-1161	金沢市鈴見台 3-15-10
塩田 惇	〒070-0040	旭川市十条 12 丁目右 4 号
竹中 則夫	〒872-1105	豊後高田市西真玉 5737-10
植村 滋	〒096-0071	名寄市徳田 250 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
新里 孝和	〒901-2421	沖縄県中頭郡中城村字登又 360-1
金栄 典子	〒921-8064	金沢市八日市 1-297-2
田村 淳	〒246-0022	横浜市瀬谷区三ツ境 32-8
田代 周史	〒869-3171	熊本県宇土市長浜町 578
石田 弘明	〒669-1546	三田市弥生が丘 6 丁目 人と自然の博物館
高木 末吉	〒933-0223	射水市堀岡 348-10
丸山まさみ	〒061-1136	北広島市松葉町 2-4-1
黒田 明穂	〒910-0369	福井県坂井市丸岡町新九頭竜 2 丁目 130 番 1 シャンパーニュ九頭竜 105 号
大久保嘉雄	〒919-0621	あわら市市姫 4 丁目 5-1 福井県立金津高校
坂井奈緒子	〒930-0985	富山市田中町 2-7-17
山幡 英示	〒586-0051	河内長野市末広町 92-7
高橋 耕一	〒390-8621	松本市旭 3-1-1 信州大学理学部生物学科
野田 昭三	〒569-1036	高槻市塚脇 1-11-21
林田 光祐	〒997-8555	鶴岡市若葉町 1-23 山形大学 農学部生物環境学科
飯塚 和幸	〒211-0068	川崎市中原区小杉御殿町 2-127-102
山森 茂	〒929-1112	かほく市多田口 95
弓場 周	〒511-0912	桑名市星見ヶ丘 6-921-1 フローラ星見 102

住所・氏名変更及び訂正 (2010年1月～2010年9月)

山崎 (佐藤) 杏子	〒936-8507	滑川市加島町 45 富山県立滑川高等学校 →
	〒939-8064	富山市赤田 631-20
早坂 英介	〒980-0862	仙台市青葉区川内 東北大学大学院理学研究科付属植物園 → 〒916-0146
		福井県丹生郡越前町朝日 17-3-1 福井総合植物園
三樹 和博	〒229-0103	相模原市相模湖町小原 859 → 〒252-0173 相模原市緑区小原 859
星野 卓二	〒700-0005	岡山市理大町 1-1 岡山理科大学 総合情報学部生物地球システム学科 →
	〒700-0005	岡山市北区理大町 1-1 岡山理科大学 総合情報学部生物地球システム学科
岩田 政志	〒606-8165	京都市左京区一乗寺野田町 16 フェアモンドビル 302 → 〒606-8026 京都市左京区修学院川尻町 3-12
渡邊 高志	〒781-8125	高知市五台山 4200-6 高知県立牧野植物園 → 〒782-0003 香美市土佐山田町宮ノ口 185 高知工科大学地域連携機構 補完薬用資源学研究室
三樹 和博	〒229-0103	相模原市相模湖町小原 859 → 〒252-0173 相模原市緑区小原 859
沼宮内信之	〒960-8163	福島市方木田字北白家 8-22 コメント B20 → 〒981-0911 仙台市青葉区台原 7 丁目 3-8 代原杜栄マンション S101
村上健太郎	〒596-0072	大阪府岸和田市堺町 6-5 大阪府きしわだ自然資料館 → 〒488-8711 尾張旭市新居町山の田 3255-5 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部

植物地理・分類学会 2011 年度大会のお知らせ

植物地理・分類学会 2011 年度大会は次の通り開催する予定です。大会の詳細および参加申し込み等のご案内は学会ニュースでお知らせいたします。

1. 会場

京都大学理学研究科セミナーハウス（理学部 4 号館西側）
京都市左京区北白川追分町

2. 日程

6月4日（土）午後より総会，一般講演，懇親会

6月5日（日）エクスカージョン

鞍馬・貴船を候補として検討中

植物地理・分類学会 2010 年度大会

植物地理・分類学会 2010 年度大会は 6 月 5 日（土）、金沢大学サテライトプラザ（石川県金沢市西町）で開催された。

まず、午後 1 時から一般市民に公開した特別講演会を行った。演者と演題は以下の通りである。

加藤雅啓（科博・植物）：カワゴケソウ科：奇妙な植物の不思議さ

御影雅幸（金沢大・薬学類）：中国におけるマオウ属植物資源と栽培問題—葛根湯が作れなくなる?!

両氏は、専門研究者でなくとも植物好きな人には興味深い話題を、美しい豊富な写真と、軽妙な語り口で講演され、講演後には活発な質疑も交わされて、植物研究の魅力を広める有意義な講演会であった。

続いて、午後 3 時より総会を行った。加藤雅啓会長から就任の挨拶があった後、議長に野上達也氏を選出し、議事に入った。まず、2009 年度活動報告として、前年度総会における今年度役員選出についての決議事項への対応報告が評議員からあった（学会ニュース No.22 でも報告済み）。続いて、庶務幹事から会誌発行状況等の報告があり、会計幹事から 2009 年度の会計報告が行われた。監査員の高木政喜氏より会計監査報告を受け、参加者の拍手により活動報告と会計報告は承認された。次に、2010 年度の活動計画が庶務幹事から、予算案が会計幹事から提案され、質疑の後、拍手により賛成多数で承認された。次に、会長より、2011 年度の大会開催地について、京都大学の永益英敏氏にお世話をお願いして、京都で開催したいとの提案があり、拍手で承認され、永益氏より挨拶をいただいた（その後の調整で開催予定日は 2011 年 6 月 4 日に決定）。その他、学会賞、会誌等についての質疑が行われた後、総会は閉会した。



加藤雅啓氏（特別講演）



御影雅幸氏（特別講演）



一般講演

午後 4 時から一般講演が行われた。演者と演題は以下の通りである。

1. 三浦憲人（富山大・院・理工）・岩坪美兼（富山大・理）：ラショウモンカズラの多様性
 2. 宮下啓子（富山大・理）・高島美幸（富山大・理）・岩坪美兼（富山大・理）・三浦憲人（富山大・院・理工）・宮下 敏（富良野市立扇山小）：アキタブキとフキの染色体
 3. 毛利千香（金沢大・薬学類）・御影雅幸（金沢大・薬学類）：宮城県金華山の“トゲナガメギ”は区別出来るか？
 4. 田上雄史（金沢大・理）・得能梨加（金沢学院東校）・岩坪美兼（富山大・理）・木下栄一郎（金沢大・環日研）：医王山に生育するイタドリの倍数性と開花フェノロジーの関係
 5. 國府方吾郎（科博・植物）・横田昌嗣（琉球大・理）・加藤雅啓（科博・植物）：生物学的に日本の絶滅危惧植物を把握する —琉球列島を例に—
 6. 小島 覚（北方生態環境研究学房）：北極圏，スピッツベルゲン島ニー・オルスン地域の植生と環境
- 一般講演終了後、会場を金沢白鳥路ホテルに移して、午後 6 時半から懇親会が開催された。美味しい料理と飲み物を手に、あちらこちらで話の花が咲き、予定の 2 時間が短く感じられる盛会であった。

（庶務幹事 五百川 裕）

植物地理・分類学会 2010 年度エクスカージョン

エクスカージョンは 6 月 6 日（日）に石川県河北郡津幡町にある出雲神社、御山神社、甲斐崎神社の 3ヶ所で行われた。出雲神社は日本海要素が入るスダジイ林、御山神社はヤブツバキープナ林、甲斐崎神社はアカガシの原生林で、どれも他の地域では見られない植生とのことだった。

8 時 30 分、32 名が金沢駅西に集合した。8 台の車へ分乗し、出雲神社へ向かう。空は快晴で、これからの

暑さを感じさせる始まりとなった。

出雲神社では、大きなスダジイとそれに巻き付く大きなフジが出迎えてくれた。まず、講師の古池博氏から、今回観察する場所の説明をお聞きした。集合写真を撮った後に、神社の左手にある道から奥へと進んだ。道の途中でムラサキシキブを発見した。日本海側のムラサキシキブは葉が大きくなるため、オオムラサキシキブと間違えられることもよくあるという。そう言われると、確かに以前太平洋側で見たものよりも葉が一回りも二回りも大きかった。もしかして富山大学構内のオオムラサキシキブ(と思っていたもの)もムラサキシキブだったのかとギクリとした。また、道沿いにはササが沢山生えていた。昔からこの辺りのササはチマキザサと呼ばれているそうだが、形態から、チュウゴクザサとのことだった。林の中の急な斜面に入って歩いていくと目の前に大きな木が現れた。木は倒れ、その横から新たな幹が伸びていた。木はある程度生長すると、その木は生長を止め、横から”ひこばえ”を出して大きくなっていく。動かないと言われる木もそうして少しずつ移動しているとのことだった。木の一生に思いを馳せつつ、倒れた木の下を通して神社の境内へと戻ってきた。出雲神社では他にもウラジロガシ、ツタウルシ、サルトリイバラ、アスナロ、スマレサイシン、ヤマツツジ、ヒメアオキ、ホオノキ、マムシグサ等が見られた。ヒメアオキやツタウルシがあるのも日本海側の特徴とのことだった。再び車に乗り、今度は御山神社へと向かう。

10時40分、御山神社に到着した。着いて早々に古池氏に神社の裏にある、イヌシデとブナがよく見える場所に案内していただいた。笹藪をかき分けた先に、ブナとそれを囲む大きなイヌシデが広がっている見事な光景だった。ブナは標高が1000mを越えるような高い所に分布しているイメージがあったので、標高200～300mほどの低い所で見ることができて感動した。また、ヤブツバキは樹形が高くなり、若葉の葉柄に毛がないという特徴があるが、ここのものは樹形が低いものや葉柄に毛があるユキツバキの形質を持ったものも稀に出てくるとのことだった。本来、植生学的にはヤブツバキとブナと一緒に生えるというのはおかしいのだが、ここでは普通に生えているらしい。話の後に御山神社の脇の整備された道を登っていく途中、早速ヤブツバキを見かけたので観察してみたが、若葉の葉柄に毛があるものは発見できなかった。もう少し観察していたら発見できたのかもしれない、心残りだった。11時20分、昼食を摂った。御山神社では他にもアズキナシ、ニセアカシア、ハウチワカエデ、ツクパネ、ガマズミ、クロモジ、カスミザクラ、チャボガヤ、トチバニンジン等が見られた。道に戻り、最後の目的地である甲斐崎神社へと向かう。

12時30分、休憩に止まった三国山キャンプ場のため池でヒメコウホネを観察した。しかし、一般的に言われているものとは形態が異なることから、別種の可能性もあるとのことだった。このような形態のものは金沢近辺でしか見られないらしく、非常に得をした気分になった。

13時10分、甲斐崎神社に到着した。社の前にはドクダミが一面に生えていて、歩く度に独特の匂いが立ちこめる。ここでは、辺りを自由に散策することになった。社の裏を行くと、大きなアカガシがあった。樹皮がはがれてみずばらしい格好となっていたが、アカガシは大きくなるとバクチノキのように樹皮がはがれてくることで、そこまで生長できたからこそその姿のようだ。そう思うとみずばらしいどころか堂々とした風格をそなえているように見えてきた。一通り見回って、社の前に戻ってきても、上へ登っていった方々はまだ戻ってきていなかった。聞くところによるとツバキ談義が白熱しているとのこと。その熱意に頭が下がる思いだった。甲斐崎神社では他にもタラノキ、ニワトコ、クサギ、ホウチャクソウ、コシアブラ、リョウメンシダ、ベニシダ、キンラン、サイハイラン等が見られた。

14時に全員が揃った所で閉会となり現地解散した。北海道出身で、富山の自然にもまだまだ詳しくない私にとっては、見たことのないものばかりの感動的な一日だった。此处に書ききれない程のお話をして下さった古池氏を始め、関係者の皆様には色々とお世話になりました。この場をお借りして深く感謝いたします。

(富山大学 宮下啓子)



植物地理・分類学会賞応募要領

植物地理学と植物分類学の振興と育成のために、植物地理・分類学会に次の2つの学会賞を設ける。

植物地理・分類学会賞

応募資格

受賞の年度までに5年以上植物地理・分類学会員であること

受賞の対象となる業績内容の例：

- ・地域植物相の解明に貢献
- ・モノグラフの研究に貢献
- ・分類群の系統解明に貢献
- ・地域の植物研究グループの中心としての教育的な貢献

応募方法

自薦または他薦による候補者の推薦

提出書類

- (1) 履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1部、あるいはこれまでの研究歴についてかかれた書類1部（学校、研究所、博物館等に所属していない人に限る）
- (2) 業績リスト1部
- (3) 主要論文の別刷りをそれぞれ3部、著書があれば1部
- (4) 推薦理由書
- (5) 業績内容を照会できる人（1名）の連絡先を記した書類

応募期限（2012年度）

2011年10月31日

応募先（必ず書留便で郵送してください）

〒953-8512 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学学校教育学系内
植物地理・分類学会 庶務幹事 五百川 裕

植物地理・分類学会奨励賞

応募資格

- ・優れた萌芽的研究を行い、今後の発展が期待できる植物地理・分類学会員
- ・ファーストオーサーとして植物地理・分類研究に論文を発表している者
- ・応募時に満35歳未満の者

応募方法

自薦または他薦による候補者の推薦

提出書類

- (1) 履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1部
- (2) 業績リスト1部
- (3) 主要論文の別刷りをそれぞれ3部、著書があれば1部
- (4) 推薦理由書
- (5) 業績内容を照会できる人（1名）の連絡先を記した書類

応募期限（2012年度）

2011年10月31日

応募先（必ず書留便で郵送してください）

〒953-8512 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学学校教育学系内
植物地理・分類学会 庶務幹事 五百川 裕

新編集委員会からのごあいさつ

今年度から編集委員が大幅に入れ替わったこの機に、編集委員会からご挨拶申し上げます。

いつも植物地理・分類学会誌「植物地理・分類研究」をご愛読下さりありがとうございます。「植物地理・分類研究」の発行は学会のもっとも重要な活動です。読者の皆様にもっとご満足のいく雑誌になるように、編集委員会ではこれまでと同様、一生懸命努めてまいる所存ですので、ご支援とご協力をお願いいたします。

「植物地理・分類研究」は、1952年に創刊された伝統ある「北陸の植物」を引き継いで1979年に誌名と体裁が変更され現在に至っています。今後も、植物の研究者から準専門家あるいはパラボタニスト・パラタクソノミスト、愛好家まで幅広い層の読者に楽しんでいただけるよう、いわゆる「面白い」論文や記事を載せてまいります。そのために、以下のような種類に分けて多彩でボリュームのある内容にしたいと思っています。

「総説」 分類、植物地理、生物多様性、植生、薬用植物などさまざまな研究の動向や成果を解説します。

「原著論文」 オリジナルの論文を載せます。

「ノート」 新産地報告、観察記録、地域植物誌(フロラ)、レッドデータブック、絶滅危惧植物、生物多様性保全、外来植物、植物園の活動など地域に密着した記事を取り上げます。

「新刊紹介」 関連の深い図書を紹介します。

(投稿規定にないもの)

「講演記録」 大会の講演を載せます。

「特集」 タイムリーな課題について複数の記事をまとめて載せます。

他に読みたい、載せたら良いとお考えのものがありましたら、編集委員会（主任編集委員）宛にお知らせ下さい。

また、投稿しやすい環境を作るため、カラー図版1点の版組み代の当面无料化、PDFファイルによる電子投稿の受付など、投稿規定を改定いたしました。今後も改定の都度、学会ホームページの投稿規定などに掲載します。

これを機に、「植物地理・分類研究」の発展のため、論文・記事を投稿下さいますようお願いいたします。

編集委員長 加藤雅啓

投稿規定の改訂について

編集委員長の交代を機に、2004年7月に部分改定された投稿規定を、時代と現実に即した内容に部分改定いたしました。主な改正点は以下の通りです。

1. 審査員を2名とする。

論文、短報、ノートの区別は、長さだけでなく、オリジナリティや議論の内容によって決まりますが、原則として短報、ノートも2名の審査員の査読を受けるものとししました。これまで編集部で行っていた予備審査をなくし、審査員に願う審査日数を短くするなどにより、投稿から審査結果が出るまでの時間を短縮します。

2. 電子投稿の受け付け。

電子メールにPDF原稿を添付しての電子投稿を受け付けることにしました。メール環境のある方には、紙媒体を用意する負担が軽減され、審査の時間短縮にも貢献します。なお、従来どおり紙媒体による投稿も受け付けております。ご都合の良い方法でご投稿下さい。

3. 和文原稿の図表の和文表記を認める。

従来は和文論文でも図表は原則として英文表記でした。地名など固有名詞の日本語表記を希望する場合、和英併記、和文表記も認めることにしました。

4. カラー図版1点の組版無料化

アマチュアの方の投稿を奨励するため、経済的負担の大きいカラー組版代を、1点に限って、当分の間無料とすることにしました。

5. ウェブサイトの引用

最近インターネットでのみ公開されている情報を引用する機会が多くなりました。これに対応して、文献としての引用方法を明記しました。

6. 最終原稿の提出

時代に即して、MS-DOS形式のフロッピーディスクという表現を削除しました。送付可能な電子媒体で、図表のデータファイルがある場合はそれも含めて送付していただくことにしました。

これらの規定変更の目的は、投稿しやすい環境を作り、会員の皆様からの投稿を増やすことにあります。ご不明の点は、下記編集委員会までお問い合わせください。ご投稿をお待ちしています。

〒939-2713

富山県富山市婦中町上轡田42 富山県中央植物園

植物地理・分類研究編集委員会

主任編集委員 中田政司

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

E-mail nakata@bgty.org

投稿規定

(2010 年 9 月部分改定)

編集方針

「植物地理・分類研究」は、植物地理・分類学会機関誌として年 1 巻 (2 号) 刊行される。本会誌は、総説、論文、短報、ノート (新産地情報、観察記録等の雑録) のほか、新刊紹介、追悼文、その他編集委員会が掲載を認めたものを掲載する。本文は日本語または英語を使用。

投稿資格

「植物地理・分類研究」に投稿する者は、原則として本会会員 (共著の場合は 1 名以上の本会会員を含む) に限る。

原稿の受付

原稿は、投稿規定に従って書かれたものだけに限り受付ける。

原稿の審査及び採否

投稿された原稿は、原則として 2 名の審査員が審査し、その意見のもとに、編集委員会が採否を決定する。

論文等の受理

原稿が編集委員会に届いた日をもって受付日 (received)、編集委員会が掲載を可とし、編集委員長がそれを認めた日をもって受理日 (accepted) とする。なお、掲載順は編集委員会によって決定する。

著作権

本誌掲載の論文、短報、ノート、その他の著作権は、植物地理・分類学会に帰属する。著者は、著作権を委譲する旨の書類を、最終原稿送付時に本学会に提出する。

論文等の長さ

本論文は、刷り上がりで、図表を含み 8 頁までとする。短報とノート (雑録) は 4 頁までとする。ただし超過頁の組版代 (1 頁につき 6,000 円) を著者で負担する場合には制限しない。

原稿の送付

a 紙原稿の場合：本稿 1 部のほか、コピー 2 部、合計 3 部を提出する。その際、表・図は 3 部ともに鮮明なコピーを送ること (写真については、原図を写真に撮ったものか、または審査に使用し得る程度の鮮明な写真コピーとする)。表・図の原図は、掲載決定後の最終原稿とともに送付する。

b 電子投稿の場合：本文、表、図とも原則として PDF ファイルとし、電子メールに添付して下記編集委員会へ送付する。添付ファイルのサイズは 5MB 以下とし、超過する場合は分割して送付する。

原稿の書き方

本論文は、①著者名と表題 (和英両方)、②所属と住所、③ Abstract (英文で 250 語以内)、④英語のキーワード (表題にない 5 個以内の語句でアルファベット順)、⑤本文、⑥引用文献の順序で構成するものとする。短報は、①著者名と表題 (和英両方)、②所属と住所、③本文、④引用文献の順序で構成するものとする。本論文・短報は、英文の場合、さらに和文の摘要を付けること。また、場合により Appendix を付けることも可。また短報が和文の場合 Summary を付けることも可。ノート (雑録) は、英和両文で著者名と題名を付ける。図の説明文は、図中には入れ込まず、独立した原稿として用意すること。本文中で使用する単位は、国際単位系 (SI) に限る。

原稿の用紙

英文原稿は、A 4 判用紙に上下 3cm 程度、左右 2.5cm 程度あけ、ダブルスペースで 25 行を原稿の 1 頁とする。和文原稿の場合は、原則として日本語ワードプロセッサを使用し、A 4 判の用紙に周囲それぞれ 3cm 程度の余白を取ったうえで、30 字×30 行程度を原稿の 1 頁として作成する。手書きの場合には、A 4 判 400 字詰め原稿用紙を用いること。

図と写真

図および写真は、そのまま印刷できるようにレイアウトして、堅い A 4 判の台紙にはりつけること。裏面には著者名と図番号、天地、縮小率を明記すること。写真は原寸大、図は 67% 縮小程度が望ましい。A 4 判に納めることが不可能な植生表のような場合には、A 4 に分割したコピーを添えること。図にはスケールを表示し、図の記号、数字には文字を貼り込むこと。図は原則として刷り上がりで 15cm (頁幅) × 19cm 以内または 7cm (半頁幅) × 19cm 以内 (いずれも幅×高さ) であること。和文原稿の図表および写真の説明は、英文、和文、英文和文併記のいずれでもよい。なお、図表は希望の挿入位置を原稿中に指示すること (著者による図表などの縮小率や位置の指定は、編集委員会において若干変更する場合があります)。当面、カラー写

真は、1点（組写真でも可）に限り組版料無料。2点目からは実費負担（1点につき40,000円）。特殊な図表は、実費を著者で負担する場合に限り掲載する。

学名および標本庫の表示

学名は、現行の国際植物命名規約（ICBN）に従い、属名および種と種以下の分類群の形容語のみをイタリックで表示する。本文中では学名以外はイタリックを使用しない。学名は初出時に命名者名を付ける。命名者名は、省略形を使用する場合、Brummit, R. K. and Powell, C. E. (eds). 1992. *Authors of Plant Names*. 732 pp. Royal Botanic Gardens, Kew または The International Plant Names Index のホームページ (<http://www.ipni.org/>) に従う。栽培植物の学名は、最新版の国際栽培植物命名規約（ICNCP）に従う。標本庫の略語は Holmgren, P. K., Holmgren, N. H. and Barnett, C. B. (eds). 1990. *Index Herbariorum* 8 ed. 693 pp. New York Botanical Garden, New York または *Index Herbariorum* のホームページ (<http://sciweb.nybg.org/science2/IndexHerbariorum.asp>) に従う。

文献の引用

引用文献は、ウェブサイトを含め本文中に引用したすべてを記さなければならない。文献の配列順序はアルファベット順とし、一件ごとに改行する。すなわち、第1著者の異なるものはアルファベット順とし、姓が同じ場合は名のアルファベット順とする。第1著者が同一の場合には、単独のものを最初とし、そのあとは、第2著者の氏名のアルファベット順とする。第2著者も同一の場合には、第3著者以下について上記に準じる。著者が同一のものについては、発表の年代順とする。同一著者、同一年代のものは、年号のあとに小文字のアルファベットを付して、1999a, 1999b のように区別する。著者が3名以上で第1著者が同じである場合は、他の著者が異なっているときでも年号のあとにアルファベットを付して区別する。なお本文中での引用は、石川（1999）もしくは（Toyama 1999）のように著者名と発表年を用いる。なお著者が2名の場合、石川・富山（1999）、（Ishikawa and Toyama 1999）、3名以上の場合、石川他（1999）、（Toyama et al. 1999）の形式を用いること。

a 雑誌の場合：著者名（姓前名後とし、すべての著者名をあげる）、年号、論文表題、雑誌名、巻数（太字）：頁とし、通し頁でない場合のみ巻数の次に丸括弧で号数をあげる。

石川太郎. 1989. 日本産イネ科の系統分類. *地理分類研究* **25**: 33-42.

Ishikawa, T. and Toyama, J. 1990. Two new species of *Poa* (Gramineae) from Japan. *J. Jpn. Bot.* **65**: 4-12.

富山次郎. 1991. 富山県産イネ科目録. *イネ科研究レター* (**52**): 8-9.

b 単行本の場合：著者名（aに同じ）、年号、表題、引用頁、発行所、発行地の順とする。なお発行地が複数の場合は一箇所のみとする。分担執筆や論文集、報告書等の場合、表題の後に編集者名、書籍表題を付け加えること。

福井三郎・新潟四郎. 1989. 日本海沿岸地域のエノコログサ属の生態. 日本海学会出版会（編）. *日本海学術報告書*, pp. 24-31. 日本海大学, 新潟.

石川太郎. 1981. *イネ科の分類*. 富山書房, 東京.

石川太郎. 1984. *イネ科*. 富山次郎（編）, *日本植物誌* III, pp. 38-78. 石川出版, 金沢.

Ishikawa, T. 1985a. *Taxonomic study of Asiatic Gramineae*. Smith and Brown, New York.

Ishikawa, T. 1985b. *Morphology in Gramineae*. In: Willson H. B., Clemens, A. C. and Backer, I. P. (eds), *Gramineae in the world*, pp. 23-45. Academia, London.

c ウェブサイトの場合：掲載者名、確認した年、表題、URLを表示する。

環境省自然環境局野生生物課. 2010. 「哺乳類, 汽水・淡水魚類, 昆虫類, 貝類, 植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて」 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>

なお、引用文献を他言語表記した場合、(in Japanese), (in Japanese with English summary), (in Russian), (in Chinese) 等を付記する。

その他、原稿の体裁については最近号をよく参照のこと。

最終原稿の送付

審査終了後の最終原稿は、2部を、電子媒体（フロッピーディスク、CD-Rなど）、表・図の原図とともに郵送する。本文は原則としてワードファイル（.doc）、表・図の電子ファイルがある場合は、それぞれエクセルファイル（.xls）、JPEG画像ファイル（.jpg）として1点ずつ別ファイルで保存する。写真の解像度は300dpi以上であること。なお、電子媒体、表、原図は原則として返却しない。返却希望の場合には、予めそ

の旨を申し出るとともに、宛先を記入した返送用封筒を、最終原稿の送付時に必ず同封すること。

校正

原則として、初校を著者が行い、第2校以降は編集委員会の責任において行うものとする。活字は編集委員会が指定するが、特に希望する箇所があれば、鉛筆で記入すること。

校閲

英文論文については、英語を母国語とする外国人の校閲を受けておくことが望ましい。編集委員会で外国人の校閲を受けることがあり、その場合の実費は著者負担とする。

別刷

投稿者は必要とする別刷部数を最終原稿に明記すること。総説、論文、短報、ノートは、50部は無料、それ以上については実費を徴収する。

原稿送付先および編集に関する連絡先

送稿や編集に関係した通信は 〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42 富山県中央植物園、植物地理・分類研究編集委員会宛。FAX (076-465-5923), E-mail (nakata@bgty.m.org)。投稿の場合、紙原稿では封筒に「投稿原稿在中」と朱書し、電子投稿では電子メールの表題を「植物地理・分類研究投稿」とすること。